

試合番号 : 363	試合会場 : 一関市総合体育館ユードーム	観客数 : 714
開始時間 : 12:00	終了時間 : 13:40	試合時間 : 01:40
主審 : 津嶋 由香	副審 : 佐藤 美里	
0勝 11敗 ポイント: 1	24 第1セット 26	日立Astemoリヴァーレ 5勝 6敗 ポイント: 14
19 第2セット 25	3	監督コメント 昨日の敗戦から、短い時間の中で切り替えるのが難しい状況の中、スタートからアランマーレの巧みなオフェンスと粘り強いディフェンスに自分たちのやりたいことがなかなかできない展開が続きましたが、なんとか踏ん張れたというゲームでした。第2セットの後半から第3セットにかけてできたことをスタートからどれだけ出せるか。リーグは年内最後となりまして、年明けからのゲームに向けていろいろなことを見直して練習していきたいと思えます。 2023年、日立Astemoの応援ありがとうございました。2024年もよろしくお願いたします。
16 第3セット 25		
第4セット		
第5セット		
監督コメント ホームゲーム2日目、本日もたくさんの皆さんの前で試合ができたこと嬉しく思います。第1セット、準備してきたことが発揮できなかった状況で後半を迎えました。しかし、大事な場面を取らなければならない状況で、最終に入る前に離されてしまい、流れそのままに第3セットで取られてしまいました。ハーフタイムを挟み、修正を加えた第3セットでは、中盤まではシーソーゲームに持ち込むことができましたが、そのあとは苦しい状況が続き、悔しい敗戦となりました。さらにレベルアップして次戦に臨みたいと思えます。アウェー戦が続きますが、ご声援よろしくお願いたします。	要約レポート 第1セット、プレステージ・インターナショナルアランマーレはメソマチ、有村のスパイクで中盤まで有利に進めるが、日立Astemoは終盤高間の効果的なサーブからオクム大庭のスパイク、渡邊のブロックで逆転に成功する。デュースまでもつれるが、長内の連続スパイクで得点しセットを先取する。 第2セットは一進一退の展開で終盤まで進むが、日立Astemoが渡邊の移動攻撃でアランマーレを突き放し、このセットも連取した。 第3セットも中盤まで互いに譲らない展開で試合が進む。日立Astemoは長内のスパイクで得点を重ねると逆転に成功し、流れを掴んだ。アランマーレもメソマチにボールを集め反撃を試みるもミスも目立ち、日立Astemoはオクム大庭がスパイクを決め、ストレートで勝利を飾った。	

試合番号 : 364	試合会場 : 一関市総合体育館ユードーム	観客数 : 714
開始時間 : 14:30	終了時間 : 16:33	試合時間 : 02:03
主審 : 伊藤 薫	副審 : 桑原 健輔	
4勝 7敗 ポイント: 11	25 第1セット 18	KUROBEアクアフェアリーズ 2勝 9敗 ポイント: 9
19 第2セット 25	3	監督コメント 非常に悔しい敗戦となった。ゲームの入りは悪かったが、相手の強力な攻撃陣に対し、徐々にアジャストし、自分たちの成長を感じさせるゲームであった。 最後は力負けとなってしまったが本日のゲーム内容をポジティブに捉え、次戦に繋げたい。 本大会もたくさんの応援をありがとうございました。
25 第3セット 19		
19 第4セット 25		
15 第5セット 8		
監督コメント 第1セットは非常にいい形を作れたが、第2セット以降こちらが単調になったところ、ミスが先行し苦しい展開となった。 最終セットで勝ち切れて修正できたが、課題が多く残る試合だったので、空き週を使ってしっかりと準備したい。 会場で応援してくださった皆様、パブリックビューイングで応援してくださった皆様、ありがとうございました。	要約レポート 第1セット、PFUブルーキャッツは序盤からバルデスとジャンのスパイクでリードする。KUROBEアクアフェアリーズは梅津のサーブやバックアタック、コラムのスパイクで追い上げるが、PFUがこのセットを先取る。 第2セット、中盤まで互角の展開。KUROBEが粘り強いブロックとレシーブからコラムのバックアタック、山口のブロックなどで抜け出しこのセットを奪い返す。 第3セット、序盤KUROBEは安田のサービスエースなどでリードするも、PFUはジャンの移動攻撃などですぐに追いつく。中盤以降PFUはサンタナと志摩の強打で流れを掴みこのセットをものにした。 第4セット、一進一退の攻防が続くが、中盤KUROBEはセッター安田を中心に多彩な攻撃をみせ、佐藤(黎)のクイックなどで6連続得点をあげ、そのままこのセットを奪う。 第5セット、PFUはサンタナや山下のサーブで崩し、細沼のブロックやバルデスのスパイクで得点を重ね、このセットを取りPFUが勝利した。	

試合番号 : 365	試合会場 : 岡崎中央総合公園総合体育館	観客数 : 1,428
開始時間 : 12:05	終了時間 : 13:28	試合時間 : 01:23
主審 : 吉岡 奈々	副審 : 増岡 三佳子	
6勝 5敗 ポイント: 19	25 第1セット 15	東レアローズ 4勝 7敗 ポイント: 11
25 第2セット 20	3	監督コメント 常にデンソーエアリービーズに先行されて、苦しいゲームとなりました。サーブで攻めきれず、レセプションアタックの決定率を下げることでできませんでした。逆に自分たちはサーブで崩されて、我慢して戦うことができませんでした。今週のゲームをしっかり振り返り年明けのホームゲームに向けて、しっかりと準備していきます。 本日は応援ありがとうございました。
25 第3セット 20		
第4セット		
第5セット		
監督コメント まずは年内最後の試合を昨日に引き続き勝利し、連勝で締めくくれたことをうれしく思います。ホームゲームということで、たくさんのご声援が苦しい時も背中を押してくれました。勝利という形でお返しできて良かったと思います。本当にありがとうございました。 試合開始からの入りを意識しましたが、期待以上に高い集中力を発揮し、サーブを起点に試合を優位に進められました。持ち味であるディフェンスや多彩な攻撃も終始出すことができました。 来年のリーグ再開に向け気持ちを新たに、いい準備をしていきます。引き続き、熱いご声援よろしくお願いいたします。	要約レポート 1リーグの最終戦、現在6位のデンソーエアリービーズがホームに同7位東レアローズを迎える対戦は、デンソーが勝利しホームゲームで2連勝とした。 第1セット、出だしにデンソーはロザリアの連続スパイクポイントでスタート。その後も連続得点を重ねリードを広げ、ゲームの主権を持って試合を進める。東レは速攻でサイドアウトを取るが連続ポイントすることができず差を詰められなかった。最後はロザリアがスパイクを決めデンソーがセットを先取した。 第2セット、このセットも序盤からデンソーが中元、ロザリアのスパイクとブロック、山下、横山のスパイクで連続得点し、一気に9点をリードしてテクニカルタイムアウトを迎えた。中盤、東レはスワカローの2本のブロック、吉野のスパイクなど4連続得点して点差を詰め、粘りを見せる。しかし、デンソーはロザリアのスパイクを軸に攻撃のリズムを持ち直し、最後はデンソーの山下がスパイクを決めセットを連取した。 第3セット、このセットは出だしからサイドアウトを取り合う競った展開となり中盤まで進む。テクニカルタイムアウトを先に迎えたデンソーは横山のブロックや東レのミスなどで連続得点しリードすると、終盤には横田の攻撃やブロックなど6連続得点で点差を7点まで広げた。最後はロザリアがこの日19点目の攻撃ポイントを決め、勝利した。	

試合番号 : 366	試合会場 : 岡崎中央総合公園総合体育館	観客数 : 1,428
開始時間 : 15:05	終了時間 : 16:20	試合時間 : 01:15
主審 : 佐々木 伸子	副審 : 内藤 聡美	
9勝 2敗 ポイント: 26	25 第1セット 15	岡山シーガルズ 2勝 9敗 ポイント: 7
25 第2セット 21	3	監督コメント 皇后杯を制したNECとの戦いで厳しくなるだろうと予想していたが、特に第3セットに相手フル回転してきた時に防ぎ、攻め切る力の足りなさを再認識した。 個々ができることの可能性を追求していくことが進化につながる。年明けからの試合に向け、頑張っていきたい。 2日間に渡り、大変寒中、温かいご声援ありがとうございました。
25 第3セット 10		
第4セット		
第5セット		
監督コメント 本日もたくさんの応援をありがとうございました。 岡山の粘り強さに苦しむ時間帯も多くなりましたが、セットを重ねるにつれてサーブで優位な状況を作ることができたことは収穫だったと感じています。 オフェンス面でもブロックディフェンスの面でもまだまだ課題が多くあるので、年明けのリーグ戦に、より成長した姿で挑めるよう準備していきたいと思えます。 2023年も熱い応援をありがとうございました。皆さんの応援が常に私たちの力になっていました。 シーズンは続いていくので2024年もよろしくお願いたします。	要約レポート V・レギュラーラウンド6連勝中のNECレッドロケッツと連敗を脱したい岡山シーガルズの年内最終戦。 第1セット、NECはドルーズと古賀のアタックで連続ブレイクを奪い、岡山を引き離す。対する岡山は金田にトスを集めたり、松本や岡野を投入したりと流れを変えようとする。岡山は終盤、佐伯が2本のブロックを決めるなど一矢報いたが、NECが確実な守りと多彩な攻撃でセットを先取した。 第2セット、NECがドルーズと山田のブロックなどで優位に序盤を進めるが、岡山は佐伯や小松原のアタックで中盤に追いつく。終盤、NECは塚田のサーブで岡山を崩し、アチャラポーンがアタックを決め、連続ブレイクを奪うと、そのリードを守りセットを連取した。岡山も粘りのレシーブや、川島、金田のブロックで会場を沸かせたが、一歩及ばなかった。 第3セット、NECはサーブで岡山を崩し、古賀のレフトからのアタックや山田のクイック、リベロ小島のファインプレーもあり、岡山を引き離してテクニカルタイムアウトを迎える。その後も勢いが止まらず、点差をつけてセットを奪い、今年最後の試合を勝利で飾った。	